

第3章

多様な主体の取組



1 多様な主体による大会参加

東京2020大会は、地域で活動をする多様な主体が、それぞれの強みや特色を発揮しながら大会開催という一つの目標に向け集中的に取り組んでいくことで、地域全体を活性化させ、発展させていく好機となる。

本区では、平成27(2015)年12月に設立した中央区オリンピック・パラリンピック区民協議会等を通じて、町会・自治会、商店街、各種団体、NPO、企業などの多様な主体が、地域の情報と課題を共有しながら、大会に向けた体制強化や来街者の受入環境整備、地域交流、文化プログラム、情報発信、まちづくり等のさまざまな取組を展開し、大会気運の盛り上げと地域の活性化を進めてきた。

多様な主体による 東京2020大会を契機としたさまざまな取組



2 地域団体の取組

1 京橋地域における取組

ア 全銀座会の取組

全銀座会では、東京2020大会の開催決定を受け、平成26(2014)年10月に全銀座会内の各構成組織や各委員会に関わる横断的な組織として「全銀座会 G2020」を立ち上げた。

大会を契機とした銀座のさらなる活性化と銀座の魅力・ブランド価値の向上を目指して、銀座に対する外部からの提案や情報提供の窓口、全銀座会・内部組織への情報共有・アレンジ、国内外からの来街者のおもてなし、イベントの企画・実行、まちの情報発信などに取り組んだ。

【これまでの主な活動】

- 中央区、東京都、東京2020組織委員会、JOC等との連携体制の構築
- 免税制度やデジタル技術を活用した広告等に関する勉強会、各店舗等で活用できる技術・サービスに関する情報収集
- 店舗における外国人観光客の対応に関するアンケートなどの実施
- エリアマネジメント広告の実施に向けた調整
- 活動状況や課題について提案、報告、審議を行う委員会の開催
- 銀座の楽しみ方、買い物・飲食でのマナー、高機能トイレの使い方などを案内する訪日外国人向けガイドブックの発行(繁体字/簡体字/英語対応)
- 大会を契機とした銀座の交通課題に関する東京都への要望
- 高齢者や障害者の方にも安心・安全なまちづくりの一環として、銀座で働く方を対象としたユニバーサルマナー検定受講の推進
- 観光案内所「G Info」の開設(平成28(2016)年3月)
- 文化プログラム実施に向けてのレクチャーシリーズ開催
- 銀座の公共空間を活用し、音楽ライブ、パフォーマンス、マーケットなどを行うGINZA Progressiveの実施(第1弾 平成29(2017)年9月30日・10月1日/第2弾 同年11月11日・12日)
- オータムギンザ2019で「知って体験 障害者スポーツ」を開催(令和元(2019)年10月27日)
- 東京2020組織委員会・東京都の関係者、アスリート、文化プログラム関係者などを招き、オリンピック・パラリンピックや銀座の魅力を語ってもらう銀座公式ウェブサイトの「Amazing Ginza! Talk」シリーズなどによる銀座の魅力の発信



▲ユニバーサルマナー検定受講風景



▲観光案内所「G Info」

イ 中央区身体障害者福祉団体連合会の取組

中央区身体障害者福祉団体連合会は、平成28(2016)年12月、パラリンピックの車椅子陸上競技に3大会連続で出場した千葉祇暉氏を講師に招き、講演会を主催した。10代に遭った事故で下半身麻痺となり車椅子生活を余儀なくされたこと、パラリンピック出場を目指し過酷なトレーニングに励んだことなどがユーモアを交えて語られた。

また、講師本人の解説とともにシドニーパラリンピック出場時の映像が上映され、会場は大いに盛り上がった。参加者からは、障害者に対する理解促進の重要性や少しの段差にも悩まされる車椅子の実情が印象的だったとの声が寄せられた。

日 時：平成28(2016)年12月7日(水)午後1時～2時30分

会 場：中央区教育センター視聴覚ホール

演 題：「立てないけど 立ち上がれ！ 目指せ！車椅子のオピニオンリーダー」

講 師：千葉 祇暉 氏 (パラリンピアン／1992年、1996年、2000年の3大会連続で車椅子陸上競技に出場)

また、同連合会は、本区の障害者スポーツ体験会やボッチャ交流会における障害者の参加促進にも協力するなど、障害者スポーツの普及に努めている。



▲シドニー 2000パラリンピック出場時の千葉氏



▲講演会後の集合写真(前列右から2人目が千葉氏)

2 日本橋地域における取組

ア 日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会の取組

日本橋地域ルネッサンス100年計画委員会は、東京2020大会に向けて日本橋の独自文化と歴史の魅力を世界に発信することを目的に、平成28(2016)年に「2020年委員会」を設置して体制を強化した。日本橋観光案内所の開設、日本橋アンバサダープロジェクトの展開など、大会開催とその先を見据えて日本橋地域全体の活性化に取り組んだ。

【これまでの主な活動】

- 日本橋の袂にある花の広場に日本橋観光案内所を開設(平成29(2017)年7月)
- 来街者が利用できるフリーWi-Fi設置の促進
- 日本橋の文化体験イベントに参加する外国人や障害者などを支援するボランティア「日本橋アンバサダー育成プロジェクト」を開始。学生(留学生を含む)と地域の企業就労者を中心に、コミュニケーション力の向上と日本橋文化への理解を深めてもらうための各種育成プログラムを実施(平成29(2017)年9月)



▲日本橋観光案内所

- 文化庁、(独)日本芸術文化振興会との共催により、「日本博 in 日本橋」を開催。日本橋エリアを巡る「重要文化財ツアー」や「浮世絵」「和食」のワークショップなど江戸の美や食文化を発信するイベントを実施(令和元(2019)年10月25日(金)～11月4日(休))
- 地域のブランド力を活かした観光商品化、舟運観光の推進
- 日本橋地域の魅力を発信する動画配信事業「日本橋ch」の運用(令和3(2021)年7月～)



▲日本橋アンバサダー活動風景



▲「日本博 in 日本橋」のワークショップ



▲「日本博 in 日本橋」の重要文化財ツアー



▲動画配信事業「日本橋ch」収録風景

イ NPO法人はな街道の取組

NPO法人はな街道は、道路元標がある名橋「日本橋」を拠点とする中央通りを四季折々の花で飾り、国際都市東京のメインストリートにふさわしい景観の保全とさらなるにぎわいの創出を目指して活動している。

大会に向けては、「日本橋ならではの花の装飾で世界中から訪れる皆様をお迎えするとともに、この地から元気を発信したい」との思いで花の広場での植栽を計画し、多くのボランティアがパラリンピックマラソンの舞台となる中央通りの美化に取り組んだ。

【これまでの主な活動】

- パラリンピックのマラソンコースとなる中央通りの花壇に、選手たちへの応援の意味を込めて新たな草花を植えて沿道を彩った。(令和3(2021)年5月)
- 区内の聖火リレー公道走行の予定にあわせて、花壇・サインボードの清掃、雑草除去、花殻摘みを行うクリーンウォークを実施(令和3(2021)年7月)



▲ボランティアが雑草取り、花殻摘みを実施(クリーンウォーク)



▲花で彩られたパラリンピックマラソンコース(日本橋・中央通り)

3

月島地域における取組

ア 中央区地域スポーツクラブ大江戸月島

月島地域を中心に活動する、平成25(2013)年2月に設立した本区初となる地域スポーツクラブであり、世代を超えて、いつでも誰でも気軽にスポーツや文化活動が出来る場として、「地域の方々の健康づくり」「地域コミュニティの活性化」を図ることにより、「活気ある、顔の見えるまち」を地域で作り上げることを目的としている。

① 選手村予定地おもてなし大清掃

選手村を訪れる選手や大会関係者を歓迎するため、平成26(2014)年1月から毎月1回、ボランティアによる選手村予定地周辺の清掃を行った。

また、平成29(2017)年11月から令和2(2020)年12月までの間は、晴海五丁目西地区第一種市街地再開発事業に関わる東京都職員、特定建築者及び工事受注者による晴海五丁目地区の美化活動と合同で実施した(令和3(2021)年7月までで計73回実施)。

なお、中央区地域スポーツクラブ大江戸月島のホームページでは、これまでの清掃活動状況の記録を掲載している。



▲再開発事業関係者とも合同で選手村予定地周辺を清掃



▲ボランティアによる清掃

② 多言語ホームページ制作

選手村周辺のまちの情報などを多言語で紹介するホームページを制作し、選手や大会関係者が本区に興味を持ち、選手村から出て区民と交流をするきっかけづくりに取り組むため、多言語ホームページを制作した(令和2(2020)年4月公開)。

イ ブラジルおもてなしプロジェクトチーム

東京2020オリンピック期間中のブラジルオリンピック委員会への豊海小学校・豊海幼稚園の貸出しに当たっては、中央区オリンピック・パラリンピック区民協議会ボランティア検討部会における検討を経て、同校・同園のPTAを中心に「ブラジルおもてなしプロジェクトチーム」が結成され、児童・園児から選手への応援メッセージを展示するなどのブラジル選手団を歓迎するおもてなしの取組が実施された。

ブラジルオリンピック委員会への豊海小学校・豊海幼稚園の貸出しについては、45、46ページを参照。

ブラジルおもてなしプロジェクトチームメンバー（敬称略）

- リーダー 元豊海小学校PTA副会長 芦澤 亜紀
- サブリーダー 元豊海小学校PTA会長 小川 将
ボランティア検討部会部会長
- サブリーダー 元豊海幼稚園PTA副会長 百澤 真由
豊海小学校PTA役員 中村 瞳
元豊海小学校PTA会長
THE TOKYO TOWERS 自治会副会長 茂木 龍也
豊海小学校PTA会長
豊海幼稚園PTA会長 太田 薫
- 顧問 勝どき西町会会長 山内 栄一郎
- オブザーバー 豊海小学校校長 村上 隆史
- オブザーバー 豊海幼稚園園長 山口 晃司

ウ 晴海おもてなし実行委員会

晴海地区将来ビジョン検討委員会メンバーを母体として、晴海地区全体のコミュニティ形成を図ることを目的に組織され、東京2020大会の開催を見据えて「晴海を知る」「知ってもらう」「大会を迎える」をテーマに、人と人がつながる取組（スモールイベント）を積み重ねた。

【これまでの主な活動】

- 「晴海を知る・体感する」まち巡り体験イベント「ブラハルミ」の開催（平成29（2017）年11月26日（日））
- 晴海の魅力、地域愛、コミュニティづくりをテーマとしたPR誌「ハルミライペーパー」の発行（計3回発行）
- 晴海地区内にある花壇で花の植付け・管理を行い、東京2020大会時に選手や観光客に対するおもてなしのまちづくりを進める「フラワーアイランド晴海2020」の実施（平成30（2018）年～）。



▲フラワーアイランド晴海2020での花の植付け

4 その他

上記以外の団体も、各団体が持つ特色や資源を活かしながら大会に向けた取組を展開した。中央区オリンピック・パラリンピック気運醸成事業補助金を活用した地域団体の取組については、110～112ページを参照。

3 関係団体の取組

関係団体がこれまで行ってきた大会に向けた取組や今後の展望等について、各関係団体から寄稿いただいた。

1 中央区観光協会の取組

ア 当協会について

当協会は、昭和34(1959)年4月に任意団体として発足し、我が国を代表する劇場や百貨店、多くの老舗・名店、ホテル、神社、寺院等230を超える企業や団体で構成されています。平成28(2016)年4月には一般社団法人として新たな一歩を踏み出し、現在に至っています。

イ 東京2020大会に向けた取組

平成29(2017)年8月に「2020年に向けた検討委員会」を設置し、選手村付近での臨時観光案内所の設置や中央通り沿いへのWi-Fi設置、国内外の観光客等に対するおもてなしやガイドを行う観光ボランティアの育成、全区民参加型の文化プログラム(案)などを、平成30(2018)年3月に報告書にまとめ取り組むこととともに、本区の観光振興策の参考として中央区に提出しました。

① 観光情報センターの強化

観光案内所連絡協議会を立ち上げ、区内の観光案内提供施設と連携し、情報共有や勉強会、区内回遊施策などを実施しています。併せて、東京マラソンEXPOやRWC(ラグビーワールドカップ)ファンブースに出展するなど臨時観光案内所としての活動も実施しています。

また、東京2020大会においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発出され無観客での開催となったことに伴い、人流を促し集客に繋がる、おもてなしセンター(臨時観光案内所)の設置を中止としました。

② ボランティアに対する取組

- 国内外の観光客等に対しおもてなしやガイドができるよう、平成29(2017)年から毎年観光おもてなしスタッフを募集し育成しています。
- 東京2020大会期間中に区内に訪れた旅行者等を案内する中央区独自の観光ボランティア(観光おもてなしスタッフ)の配置を検討しましたが、東京都の観光ボランティア(街なか観光案内)



▲臨時観光案内所(東京マラソンEXPO)



▲臨時観光案内所(RWCファンブース)



▲観光おもてなしスタッフ講習

が活動することとなったことから、配置を見合わせました。

- 東京2020大会期間中に開設予定だったおもてなしセンター等で、近隣を1時間程度無料で案内する外国人旅行者等に対応した、待機型観光ガイド（観光おもてなしスタッフ）の配置を中止しました。ただし、東京2020大会を見据え、観光情報センターにて試行的に実施しました。



▲待機型観光ガイド

期 間：令和2（2020）年3月20日（祝）～28日（土）（緊急事態宣言発出により予定を短縮）

参 加 者：20人（内、インバウンド人員5人）

③ 障害者スポーツ普及啓発活動

サマーフェスティバルなどのイベントで、パネル展示やボッチャ体験、車いすバスケットボール選手が乗る車いすの乗車体験ができるコーナーを設け、普及啓発を行いました。

日 時：平成29（2017）年8月20日（日）

平成30（2018）年8月19日（日）

令和元（2019）年8月18日（日）

会 場：総合スポーツセンター・浜町公園



▲ボッチャ体験（サマーフェスティバル）



▲車いす乗車体験（サマーフェスティバル）

ウ 東京2020大会を踏まえた今後の展望

新型コロナウイルス感染症により、おもてなしセンターでの来街者の迎え入れはかないませんでした。Webによる国内外に向けた中央区の観光情報を発信しました。発信した観光情報により日本・東京の中央区を訪れたいと思っている海外の皆さまに、区内を安心・快適に巡っていただけるよう、観光おもてなしスタッフ（日本語・外国語観光ガイド、外国語通訳サポーター）の育成・充実、老舗や名店と協働して開発した新たなまち歩きツアーコース、観光協会オリジナルグッズ、さらに中央区推奨土産品の選定・Web販売などに取り組んでいます。

2 中央区商店街連合会の取組

ア 当会について

商店街は地域コミュニティの核として、地域の生活・防犯・防災等の社会的機能を補完する公共的な役割を担い、地域経済や雇用を支えています。そうした商店街相互の緊密な連携と親睦を深め、商店街の健全な発展を図ることにより区内の商業振興に寄与することを目的に、昭和26(1951)年に結成され、36商店街(会)(令和4(2022)年2月現在)で構成されています。

イ 東京2020大会に向けた取組

商店などで働く従業員の皆さんなどを対象に、外国人旅行者の受入環境を充実させることを目的として、異文化理解を深め語学や接客のスキルの習得を目指した実践的な講座を、中央区と中央区商店街連合会との共催により実施しました。

また、東京都のシティドレッシング事業に賛同し、大会気運の醸成と商店街の活性化や地域経済の発展に資することを目的として、大会フラッグの掲出が可能な街路灯を有する商店街において令和2(2020)年から大会終了までの間、それぞれの商店街の掲出可能な期間に掲出を行いました。

① 外国人旅行者おもてなし接客講座

参加者の語学やより喜ばれる接客に向け各自の課題に対して求められる実践的なフレーズや単語を練習し、学んだことを職場ですぐに活用できるよう努めました。参加者の理解や習得度は高く、結果アンケートでは9割以上から満足の回答を得られました。



▲おもてなし接客講座

- 日 時：平成28(2016)年7月6日(水)、13日(水)、19日(火)、27日(水)、8月3日(水)
午後2時～4時(区主催)
- 平成29(2017)年7月4日(火)、11日(火)、18日(火)、24日(月)、
8月1日(火)
午後2時～4時(区商店街連合会・区共催)
- 平成30(2018)年7月3日(火)、9日(月)、19日(木)、24日(火)、
31日(火)
午後2時～4時(区商店街連合会・区共催)
- 令和元(2019)年7月16日(火)、19日(金)、22日(月)、29日(月)、
8月5日(月)
午後2時～4時(区商店街連合会・区共催)
- 会 場：区役所8階大会議室
- 内 容：参加者を少人数に分け、グループごとにアシスタントを配置し、実践的できめ細かな異文化理解、英語・中国語の語学・接客の講座・演習を実施

参加者数：平成28(2016)年度 延べ214人
 平成29(2017)年度 延べ204人
 平成30(2018)年度 延べ203人
 令和元(2019)年度 延べ210人
 ※令和2(2020)・令和3(2021)年度は、新型コロナウイルス感染症
 拡大防止の観点から中止

② 大会フラッグ掲揚

5種類あるデザインのS・Lいずれかの
 サイズを並べ方ルールに従い商店街の街
 路灯に掲出しました。(デザインは令和3
 (2021)年度に新しいものに変更。区商
 店街連合会未加盟商店会は実行委員会
 対応)



▲八重洲通りでの大会フラッグ掲揚

令和元(2019)年度 10商店会 421旗
 令和2(2020)年度 14商店会 638旗
 (参考：未加盟商店会実施分 2商店会 36旗)
 令和3(2021)年度 17商店会 940旗
 (参考：未加盟商店会実施分 7商店会 71旗)

※()内は、実行委員会に対応した未加盟商店会に係る外数

ウ 東京2020大会を踏まえた今後の展望

外国人旅行者おもてなし接客講座については、大会で訪れる多くの外国人観光客
 に対応できるよう実施しましたが、大会後も外国人観光客の来訪が活発化するタイ
 ミングを見据え、その時々に応じたおもてなしのための異文化理解、語学・接客の
 演習等の開催を検討していきます。

③ 中央区文化・国際交流振興協会の取組

ア 当協会について

当協会は、区で生活する人々が主体的に、自由に、はつらつと文化活動や国際交
 流を進められるよう、その基盤となる組織として平成3(1991)年に誕生した団体
 です。おかげさまで東京2020大会が開かれた令和3(2021)年、創立30周年を迎
 えることができました。

イ 大会開催決定からの8年間を振り返ると

この間、協会として改めて大切に感じたことが二つあります。一つめは、ボラン
 ティア活動についてです。

① 協会関連の区内日本語教室

従前より、協会登録ボランティアの方に事業で活躍してもらっています。例えば、日本語教室では日本語ボランティアに指導をお願いしています（令和3（2021）年11月1日現在 日本語ボランティア232人）。

- 協会が主催する教室 3教室
- ボランティアが主催する教室 7教室

教室活動は1回2時間、月3～5回程度ですが、地域の方が指導に関わることで教室の意義が深まります。一方向の授業形式ではなく、指導者は同じ地域に暮らす者として外国人に1対1や少人数グループで接しています。双方向のコミュニケーションで外国人の地域理解が促進され、同時にボランティアには元気をもたらされ、さらなる地域活動につながる力ともなっています。

② 外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

今回、東京都は大会に向けて、5万人を目標に、「外国人おもてなし語学ボランティア」育成に幅広く取り組みました。区では協会が、平成28（2016）年度から4年間、その育成講座を東京都と共催いたしました（最終の令和元（2019）年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため募集中止）。



▲外国人おもてなし語学ボランティア育成講座

- おもてなし講座+語学（英語）セット講座（全3日間）
通算5回開催 受講者計 168人（うち修了者160人）
- おもてなし講座（1日）
通算7回開催 受講者計 394人（うち修了者389人）

本講座は、多くの方にボランティア活動への関心をかき立てました。この気運を活かし、協会ボランティアを広く募るとともに、始められた方に末永く続けていただけるよう、お互いの顔が見える関係を大切にしながら、適宜適切な支援に努めてまいります。

ウ 「やさしい日本語」の必要性

二つめは、「やさしい日本語」の必要性です。近年、外国人に向けた言葉として「やさしい日本語」が注目されています。「易しい」と「優しい」の二つの意味を込めて平仮名で書かれる「やさしい日本語」は、平成7（1995）年の阪神・淡路大震災をきっかけに生まれました。震災後、外国人住民への情報伝達に英語を使ったところ、母語が多様で「英語はわからない。」「日本暮らしで簡単な日本語ならわかる。」との声が出ました。

実は英語圏の国でも、非ネイティブ向けに平易な英語を使うことがあります。こうして、言い換えによる「易しさ」と配慮による「優しさ」を兼ね備えた「やさしい日本語」が生みだされ、災害時だけでなく日常的に使われ出しました。簡易な日本語への変換には、その技法とともに、使用する側の配慮（態度や気持ち）が重要

です。やさしい日本語は細かなニュアンスまでは伝えきれず、時には見慣れない言い回しや幼稚に感じる表現になります。それを受け入れ、対等なコミュニケーションを心掛ける配慮が求められます。最近では、日本人の高齢者や子どもたちへの情報伝達にも有効とわかり、国際交流団体だけでなく自治体を使う場合もあります。そこで、協会ボランティア等を対象に研修会を開催しました。

① ボランティア研修会

日 時：令和3(2021)年3月4日(木)午後3時～4時30分
令和3(2021)年3月5日(金)午後2時～3月21日(月)午後2時59分(録画配信)

会 場：協会講習室及びZOOM配信

演 題：外国語ができなくても大丈夫！伝えられる「やさしい日本語」でコミュニケーション力を高めよう

講 師：聖心女子大学現代教養学部日本語日本文学科教授 岩田 一成 氏

受 講 者：対面講座11人(区職員3人含む)、配信46人 計57人

この後、協会機関誌で特集したほか、ホームページや事業チラシで活用しております。「やさしい日本語」は万能ではないものの、上手に活用すれば多様な人にやさしい情報伝達手法となりますので、その普及に努めてまいります。

エ すべての人々がいきいきと活動するまちづくり

大会は、国際化や多様化への対応が必要なことを明らかにしました。中央区も外国人住民が増加し、国際化が進んでいます。協会発足時の平成3(1991)年の1月は835人でしたが、30年後の令和3(2021)年には8,291人と約10倍になりました。出身地は中国や韓国などの近隣諸国・地域で約7割を占めていますが、国や地域数は100近くへのより多様化が進んでいます。

こうしたことを踏まえ、協会では日本人と外国人が文化交流をする「国際交流のつどい」や「国際交流サロン」をボランティア主体で行ってまいりました。

今後とも、「ボランティア」による文化振興活動や日本人と外国人との相互交流事業、あるいは「やさしい日本語」による情報伝達手段の多様化など、身の丈サイズで取り組めることを進め、区が目指す「人々のつながりが広がる文化の香りと平和に包まれたまち」づくりに向け、その一翼を担ってまいります。



▲国際交流のつどい

4 中央区社会福祉協議会の取組

ア 当会について

社会福祉協議会は、地域福祉を推進する民間団体として社会福祉法第109条に定められ、全国の自治体に設置されています。中央区社会福祉協議会（以下「当会」）は昭和28（1953）年5月に任意団体として設置され、昭和37（1962）年9月に社会福祉法人として認可を受け、令和4（2022）年度には法人化60周年を迎えます。地域共生社会の実現に向けて、区民、行政とともに誰もが安心して暮らせるまちづくりに取り組んでいます。

イ 大会に向けた本会の方向性

東京2020大会では、区民をはじめ日頃から地域で活動するさまざまな団体が、大会を支えるボランティア活動への参加を通じて、ボランティア意識の向上及び大会の気運醸成を促進するとともに、障害の有無にかかわらず、誰もが居場所や役割を有する地域社会を目指し、従来の「支える」「支えられる」関係を越えた新しいつながりづくりに取り組みました。

ウ 実施した取組

① ボッチャ体験&福祉ちょこっと相談会



▲ボッチャ体験&福祉ちょこっと相談会（左右写真）

当会が事務局を担う、地域公益活動に取り組む区内社会福祉法人のネットワーク「中央区社会福祉法人連絡会」が、平成29（2017）年度から令和元（2019）年度にかけて、パラリンピック正式種目である「ボッチャ」を通じて区民同士の交流と障害理解の増進を図る体験型イベントを3回実施しました。いずれの回も子どもから高齢者まで、世代や障害種別を超えたさまざまな区民が参加し、誰もが同じルールのもとで楽しめるユニバーサル・スポーツとして「ボッチャ」の認知度が高まるとともに、地域共生社会を実感できる機会となりました。

併せて当会では、障害に対する理解増進のため、区民同士の交流や地域活動向けに「ボッチャセット」の無償貸出しも行っています。

なお、令和2（2020）・令和3（2021）年度の「ボッチャ体験&ちょこっと相談会」については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により開催を見合わせましたが、今後も「ボッチャ」の活用によりソーシャル・インクルージョンのさらなる普及啓発に取り組んでいきます。

- 日 時：第1回 平成30(2018)年3月18日(日)午後1時～4時
 第2回 平成30(2018)年12月2日(日)午後1時～4時
 第3回 令和元(2019)年11月23日(祝)午後1時～4時
- 会 場：月島区民センター1階会議室ほか
- 主 催：中央区社会福祉法人連絡会
- 協 力：一般社団法人日本ユニバーサルボッチャ連盟
 パラリンピアン 秋元 妙美 氏
- 内 容：誰でも参加できるボッチャの体験会と予約不要の福祉に関する総合相談
- 参 加 者：第1回 区内社会福祉法人10法人・区民等206人
 第2回 区内社会福祉法人11法人・区民等172人
 第3回 区内社会福祉法人11法人・区民等128人

② 折り鶴ウェーブ—中央区おもてなしプロジェクトへの参加

●キックオフイベントへのボランティア参加促進

折り鶴ウェーブのキックオフイベント開催に際し、当会の広報紙「中央区社協だより」や「キャッチボール」に募集案内を掲載するなど、区内のボランティア団体、区民等に広く参加を働きかけ、イベントへの参加促進を図りました。

本イベントを通じて、参加者一人一人のボランティア精神を高めるとともに、地域社会や活動団体等において、折り鶴ウェーブへの参加を広く呼び掛けるきっかけづくりともなりました。

また、当会の支援を受けている折り紙の得意な障害のある方には、ボランティア指導員として参加する機会と場を提供することによって、障害者の社会参加を一層推進することができました。

なお、令和2(2020)・令和3(2021)年度は、当会の活動拠点や各種行事・イベントの開催時において、折り鶴ウェーブの参加促進を継続して働きかける予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大等により見合わせました。

●「中央区健康福祉まつり2019」における専用ブースの設置



▲中央区健康福祉まつりでの折り鶴作製ブース(左右写真)

「折り鶴ウェーブ」の趣旨に賛同しこれを支援するため、「中央区健康福祉まつり2019」会場内に専用ブースを設置して、ボランティアとして参加した方をはじめ多数の区民が折り鶴づくりに参加しました。

日 時：令和元（2019）年10月27日（日）午前10時～午後3時
会 場：あかつき公園
主 催：本会及び区民ボランティア
内 容：専用ブースでの「折り鶴」づくりと「折り鶴ウェーブ」の区民等
への啓発
参 加 者：区民

エ 東京2020大会のレガシーと今後の展望

折り鶴ウェーブ等による気軽に参加できるボランティア体験を契機にボランティアレガシーとして継承し、ボランティア活動の輪をさらに広げていくとともに、区内のボランティア団体、区民等のボランティア意識を一層高めるため、誰もが気軽にボランティア活動に参加しやすい環境や仕組みづくりを進めていきます。

また、地域共生社会の実現に向けて、多世代交流や障害の有無にかかわらず区民同士が交流できるイベントや場づくり等の取組に「ポッチャ」を積極的に活用し、ソーシャル・インクルージョンの一層の普及啓発を図ることによって、今後も支えあいの地域づくりを推進していきます。

4 民間企業の取組

1 京橋地域における取組

ア スマイルリレープロジェクト（株式会社 明治）

株式会社 明治は、子どもたちの成長に必要な栄養素を摂取することができる商品の売り上げの一部で子どもたちの運動の機会を創出することを目的に、体育用具のセットを全国の小学校に贈呈する「スマイルリレープロジェクト」を行った。

平成29（2017）年9月にキックオフ特別授業が泰明小学校で開催され、オリンピックでレスリング選手の吉田沙保里氏と伊調馨氏、体操選手の田中理恵氏をゲストに迎え、小学4年生約50人とレスリングとボッチャの体験が行われた。また、同校にサッカーボールとボッチャのセットが贈呈された。

日 時：平成29（2017）年9月27日（水）午後1時～3時

会 場：泰明小学校 体育館

参 加 者：泰明小学校児童（4年生46人）

ゲ ス ト：吉田 沙保里 氏（オリンピック／レスリング）

伊調 馨 氏（オリンピック／レスリング）

田中 理恵 氏（オリンピック／体操）

内 容：レスリング体験、ボッチャ体験

主 催：株式会社 明治



▲左からゲストの田中氏、吉田氏、伊調氏
（提供 株式会社 明治）



▲泰明小学校児童が伊調氏に挑戦（提供 株式会社 明治）

イ 輪～東銀座を彩る風鈴イベント～（松竹株式会社）

令和2（2020）年、松竹株式会社は、地域と連携して賑わいを創出し、まちの魅力を発信していく活動として、「今と昔を結ぶまち 人と人とを結ぶまち 東銀座」をコンセプトに東銀座エリアマネジメントプロジェクトを立ち上げ、様々な取組を展開している。

本イベントには、大会開催を契機に店舗や寺社などが多数参加し、地域が連携した取組として実施された。

期 間：令和3（2021）年7月20日（火）～9月5日（日）

場 所：晴海通り・木挽町通りの各店舗の軒先、銀座松竹スクエア外構、歌舞伎座タワー外構、東劇ビル外構、築地本願寺外構、築地KYビル外構

主 催：東銀座エリアマネジメントプロジェクト（松竹株式会社）

協 力：株式会社ヘラルボニー

補 助：中央区オリンピック・パラリンピック気運醸成事業補助金交付事業

内 容：●イベント名に地域の輪、輪（リン）と鳴る涼しげな風鈴の音色の2つの意味を込め、約400個の風鈴を店舗や施設に設置

- 風鈴の短冊は、株式会社ヘラルボニーと契約を結ぶ、福祉施設に在籍するアーティストらの5作品で制作



▲5色の短冊 (提供 松竹株式会社)



▲歌舞伎座に設置した風鈴 (提供 松竹株式会社)

ウ 中央区三十七町と東銀座展 (松竹株式会社)

- 期 間：令和3(2021)年7月20日(火)～令和4(2022)3月中旬(予定)
- 場 所：中央区築地一丁目11番10号(築地一丁目解体工事現場の仮囲い)
- 主 催：東銀座エリアマネジメントプロジェクト(松竹株式会社、住友不動産株式会社)
- 協 力：中央区観光協会
- 内 容：工事現場の仮囲いに、中央区三十七町に東銀座を加えた38のまちを、各地域にちなんだ図柄で表現し掲出



▲まちの歴史と伝統が感じられる図柄で仮囲いを装飾 (提供 松竹株式会社)

2 日本橋地域における取組

ア 三井不動産スポーツアカデミー for Tokyo 2020

三井不動産株式会社は、「スポーツの力」を活用したまちづくりの一環として、スポーツを通じた“つながり”を生み出し、地域のコミュニティを活性化することでまちづくりを推進することを狙いとした「三井不動産スポーツアカデミー for TOKYO 2020」を平成28(2016)年に開校した。三井不動産株式会社が運営する商業施設やまちづくりを進める地域の小・中学校で、一流アスリートが講師となってオリンピック・パラリンピック競技の紹介や体験会を実施するスポーツ教室を開催した。

① 第1回三井不動産スポーツアカデミー for Tokyo 2020

平成28(2016)年4月13日(水)の第1回目の開催に先立ち、開校式が日本橋三井ホールにて行われた。開校式後、同ホールにて、常盤小学校児童約50人が招待され、体操競技オリンピックの田中理恵氏による体操アカデミーと、ウィルチェアーラグビー日本代表によるウィルチェアーラグビーアカデミーが行われた。

日 時：平成28(2016)年4月13日(水)

開校式 午前10時～10時30分
 スポーツアカデミー 午前10時30分～11時45分

会場：日本橋三井ホール

参加者：常盤小学校児童50人（4年生14人、5年生22人、6年生14人）

ゲスト：朝原 宣治氏（オリンピック／陸上競技）
 池田 信太郎氏（オリンピック／バドミントン）

講師：田中 理恵氏（オリンピック／体操）
 島川 慎一選手、池崎 大輔選手、今井 友明選手、福井 正浩コーチ
 （ウィルチェアーラグビー日本代表）

内容：体操アカデミー
 ウィルチェアーラグビーアカデミー

主催：三井不動産株式会社

協力：東京2020組織委員会

後援：JOC、JPC、中央区、中央区教育委員会

特別協賛：三井不動産レジデンシャル株式会社



▲ゲスト、講師と常盤小学校児童が開校式で記念撮影
 （提供 三井不動産株式会社）



▲今井選手とウィルチェアーラグビーを体験する常盤小学校児童
 （提供 三井不動産株式会社）

② 第8回三井不動産スポーツアカデミー for TOKYO 2020

城東小学校児童を対象に、「ウィルチェアーラグビーアカデミー×株式会社 明治 Presents 食育セミナー」が開催された。

ウィルチェアーラグビー日本代表の選手を講師に迎え、第1部では全校児童にウィルチェアーラグビーのルールの説明や障害のある方との接し方などの講演、第2部では4～6年生を対象に、車いすでの鬼ごっこ体験や世界レベルのタックル体験を行った。

また、スポーツと同様に心身の健康を保つために「食」の大切さについても知ることを目的に、初めての試みとして、株式会社 明治の協力のもと、食育セミナーが行われた。

日時：平成29（2017）年7月5日（水）午前9時20分～11時50分

会場：城東小学校

参加者：第1部 城東小学校全校児童 127人

第2部 城東小学校4～6年生 42人



▲池崎選手に車いすの動きを教わる城東小学校の児童
 （提供 三井不動産株式会社）

ゲスト：池 透暢選手、池崎 大輔選手、今井 友明選手、島川 慎一選手、福井 正浩コーチ（ウィルチェアーラグビー日本代表）

内容：第1部 デモンストレーション・講演会
第2部 ウィルチェアーラグビーの体験
食育セミナー（株式会社 明治）

主催：三井不動産株式会社

協力：東京2020組織委員会、株式会社 明治

後援：スポーツ庁、JPC、東京都、中央区、中央区教育委員会

特別協賛：三井不動産レジデンシャル株式会社

イ 日本橋シティドレッシング（三井不動産株式会社）

日本橋で初めて開催された平成27（2015）年10月のシティドレッシングを皮切りに、リオデジャネイロ2016大会後、1000日前、1年前、東京2020大会などの節目に日本橋の街全体を彩る装飾を行い、大会気運を盛り上げた。

各シティドレッシングは、40、58、115、116、119、122、123ページを参照。

ウ 超ふつうじゃない2020展 by 三井不動産

令和元（2019）年7月23日（火）から8月4日（日）まで、“世界は、こんなに、ふつうじゃない”をコンセプトに、東京2020大会の競技種目、選手について楽しく遊んで学べる体験型展示イベントが開催された。

イベントの詳細は、123ページを参照。

エ オリピック・アゴラ（オリンピック文化遺産財団・三井不動産株式会社）

令和3（2021）年7月1日（木）から8月15日（日）まで、オリンピック文化遺産財団主催で、芸術・文化を通じて、オリンピック精神や価値を伝えるオリンピック史上初となる文化拠点イベント「オリンピック・アゴラ」が日本橋室町エリアで開催された。三井不動産株式会社は、オフィシャルパートナーとして開催を支援した。

イベントの詳細は、40ページを参照。

3 月島地域における取組

ア WANGAN ACTION スポーツアカデミー（三井不動産レジデンシャル株式会社）

三井不動産レジデンシャル株式会社は、平成26（2014）年から、中央区勝どき・月島、江東区豊洲等の湾岸エリアの活性化を目的に、「太陽のマルシェ」の開催や「MIFA Football Park」等を支援するプロジェクト「WANGAN ACTION」を推進してきた。

この取組の一環として、一流のアスリートらが監修し、親子が一緒になって楽しめるスポーツ教室「WANGAN ACTION スポーツアカデミー」を平成28（2016）年5月から開始した。

① 体操アカデミー

日程：平成28（2016）年5月22日、29日、6月5日、12日、19日、26日、
7月3日、10日（全8回）
午後2時～2時50分

会場：月島第一小学校体育館・視聴覚室
 対象：区内在住・在学の小学生
 人数：20人
 内容：マット運動、跳び箱
 ※田中理恵氏（オリンピック／体操）監修のプログラムを実施
 主催：WANGAN ACTION スポーツアカデミー実行委員会（三井不動産レジデンシャル株式会社、中央区地域スポーツクラブ大江戸月島。以下も構成は同じ。）
 特別協賛：三井不動産株式会社
 後援：中央区、中央区教育委員会



▲マット運動を教わる参加児童
 （提供 三井不動産レジデンシャル株式会社）

② 小学生陸上・かけっこ教室

日程：平成29(2017)年1月14日、21日、28日、2月4日（全4日間）
 午前9時30分～11時
 会場：豊海小学校体育館
 対象：区内在住・在学の小学生
 人数：30人
 内容：短距離走を中心とした陸上基礎講座
 ※朝原宣治氏（オリンピック／陸上競技）監修のプログラムを実施
 主催：WANGAN ACTION スポーツアカデミー実行委員会
 特別協賛：三井不動産株式会社
 後援：中央区、中央区教育委員会



▲朝原氏、荒川氏の講演を真剣に聞く参加児童
 （提供 三井不動産レジデンシャル株式会社）

③ 小学生体操教室

日程：平成29(2017)年5月14日、21日、28日、6月4日（全4日間）
 午後2時5分～3時15分
 会場：月島第一小学校体育館
 対象：区内在住・在学の小学生
 人数：30人
 内容：跳び箱をはじめとする体操基礎講座
 ※水鳥寿思氏（オリンピック／体操）監修のプログラムを実施
 主催：WANGAN ACTION スポーツアカデミー実行委員会
 特別協賛：三井不動産株式会社
 後援：中央区、中央区教育委員会



▲水鳥氏らと記念撮影をする参加児童
 （提供 三井不動産レジデンシャル株式会社）

④ 小学生卓球教室

日 程：平成30(2018)年11月25日、
12月2日、9日、16日(全4日間)
午後3時10分～4時10分

会 場：月島第一小学校体育館
対 象：区内在住・在学の小学生
人 数：36人
内 容：卓球の基礎講座

※丹羽孝希氏(オリンピック/卓球)監修のプログラムを実施(初日はスペシャルゲストとして出演)

主 催：WANGAN ACTIONスポーツアカデミー実行委員会
特別協賛：三井不動産株式会社
後 援：中央区、中央区教育委員会



▲丹羽氏に卓球を教わる参加児童
(提供 三井不動産レジデンシャル株式会社)

⑤ 小学生体操教室

日 程：平成30(2018)年12月23日(日)
午後3時10分～4時10分

会 場：月島第一小学校体育館
対 象：区内在住・在学の小学生
人 数：40人
内 容：跳び箱をはじめとする体操基礎講座

※スペシャルゲストとして水鳥寿思氏(オリンピック/体操)が出演

主 催：WANGAN ACTIONスポーツアカデミー実行委員会
特別協賛：三井不動産株式会社
後 援：中央区、中央区教育委員会



▲水鳥氏にマット運動を教わる参加児童
(提供 三井不動産レジデンシャル株式会社)

⑥ 車いすラグビー教室

日 程：令和元(2019)年10月25日(金)
午前10時40分～午後0時15分

会 場：豊海小学校体育館
対 象：講演会 豊海小学校全校児童
体験会 豊海小学校3年生

内 容：車いすラグビー選手による講演会と体験会

※峰島靖氏(車いすラグビー)監修のプログラムを実施(峰島靖氏のほか、車いすラグビーの岸光太郎選手、乗松隆由選手、菅野元揮選手、中町俊耶選手、山口貴久選手、月村珠実選手が講師として出演)

主 催：WANGAN ACTIONスポーツアカデミー実行委員会



▲豊海小学校児童と車いすラグビー選手の記念撮影
(提供 三井不動産レジデンシャル株式会社)

特別協力：三井不動産株式会社
後援：中央区、中央区教育委員会

イ 第5回三井不動産スポーツアカデミー for Tokyo 2020

平成28(2016)年11月21日(月)に、豊海小学校の児童を対象に、北京2008オリンピック陸上競技・4×100mリレー銀メダリストの朝原宣治氏を講師に迎え、陸上アカデミーを開催した。当日は、オリンピックや選手村に関する講演、実際のアスリートのスピードを体感するなどのプログラムが行われた。



▲朝原氏、荒川氏と記念撮影をする豊海小学校児童
(提供 三井不動産株式会社)

日時：平成28(2016)年11月21日(月)
午前10時20分～午後0時15分
会場：豊海小学校
参加者：豊海小学校全校児童(実技指導は6年生67人)
講師：朝原 宣治 氏(オリンピック/陸上競技)
荒川 大輔 氏(陸上競技走り幅跳び選手)
内容：第1部 講演会
第2部 陸上競技の実技指導
主催：三井不動産株式会社
協力：東京2020組織委員会
後援：JOC、JPC、東京都、中央区、中央区教育委員会
特別協賛：三井不動産レジデンシャル株式会社

ウ Grow with Googleセミナー(グーグル合同会社)

令和元(2019)年12月、グーグル合同会社は、CLT PARK HARUMI(※1)にデジタルスキル習得をサポートする全国初の拠点「Grow with Googleラーニングセンター」を設置した。これを機に、中央区観光協会はGrow with Google(※2)パートナーに登録し、グーグルと連携してデジタルを活用した観光施策を実施した。



▲第1回セミナーの様子

この一環として、中央区の観光に関わる人材を対象に、「いますぐはじめる観光のデジタル化」をテーマとして、外国人観光客との円滑なコミュニケーションやスムーズな観光案内、インターネット上でのビジネスのアピール方法など、観光分野におけるデジタルスキル習得をサポートするセミナーを開催した。

- ※1 日本の木材活用のシンボルとして三菱地所株式会社が、令和元(2019)年12月から令和2(2020)年9月まで、晴海三丁目に設置した施設。建築家の隈研吾氏がデザイン監修しており、運用後は建築に使用した木材の生産地である岡山県真庭市に移築された。
- ※2 デジタルスキルを底上げし、ビジネスやキャリアをさらに発展させ、日本経済のさらなる成長に貢献するためのプロジェクト。国土交通省観光庁が後援し、多数の自治体や観光協会、大手企業がパートナー登録している。

① 第1回

日 時：令和2(2020)年1月30日(木)午後3時～4時30分

会 場：CLT PARK HARUMI (晴海3-2-15) 屋内展示棟A棟

参 加 者：16人(区民協議会観光・文化検討部会及びボランティア検討部会部会員等)

② 第2回

日 時：令和2(2020)年2月18日(火)午後3時～4時

会 場：中央区観光協会会議室

参 加 者：20人(区内観光案内所運営者・スタッフ等)

4 その他

ア 観光情報の発信における Google マップの活用

グーグル合同会社の協力により、中央区観光協会が発行している観光パンフレット等の掲載内容を Google マップ上に登録するとともに、そのページにアクセスする二次元コードを観光パンフレット等に掲載し、紙面上とデジタル上で同じ内容を提供した。



▲観光パンフレットへの二次元コード掲載



▲Googleマップで表示される観光情報